

【名称】旧樋口家住宅

【所在地】丹波篠山市西町25番地

【指定番号】第1号

【指定年月日】平成27年9月29日

【構造】主屋（通り土間を含む）：
木造2階建(厨子2階)平入り
離れ：木造平家建
土蔵：土蔵造2階建
土塀

【敷地面積】1,199.97㎡

【建築面積】379㎡

【延床面積】469㎡

【建築年代】明治期



旧樋口家住宅

【建造物の由来・沿革・特徴】

篠山城下町の西町に位置し旧京(山陰)街道に面している。元銀行経営者の住居であり、明治期の建物と推定される。城下町の商家群の中で、数少ない大規模な商家の内のひとつである。創建以降様々な商いを行ってきたようであるが、旧所有者によると、基本的には庄屋機能を有する住宅建築であったとのことである。

建物配置は、奥に長い敷地に対して、道路側より「主屋（通り土間を含む）」、「土塀」、中庭を挟んで奥に「離れ」、「土蔵」である。また敷地南西（最も奥）には、かつては50m毎にあったとされる「エノキの大木」が存在する。

平成27年10月からは、宿泊施設として活用される。



位置図

【指定理由】

明治期の建築と推定される大規模な平入り町家。主屋は、厨子二階で、細格子、荒格子、漆喰壁、鉄製丸棒面格子などの素朴な意匠は、丹波篠山の大规模商家の面影を残している。主屋正面の外観は、伝統的な格子戸と洋風ガラスが混在し、江戸期から明治期への変化の特徴が見られる。

また、主屋、切妻造りの離れ、土蔵、など、その風格ある佇まいは城下町の町並み形成において貴重な建物である。

城下町地区で初めて、大規模な町家を再生し、宿泊施設として活用を図ったという点でも価値のある建物である。